
W Britannia Order～Ultima Online Side Story～

皇帝インコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

New Britannia Order Ultimate Online Side Story

【Nコード】

N5104C

【作者名】

皇帝インコ

【あらすじ】

かつてメイジ評議会の一員だったサイデルは東ブリタニア共和国を建国してブリタニア王国に宣戦布告！UO二次創作でありながら近現代風の戦闘が展開する。

Episode00（蜂起）（前書き）

UOの実際の仕様に準じたものではありません。

Episode 00（蜂起）

ソーサリアにブリタニアという国家が誕生してからどれ程になるだろうか。

いつ頃からか、ブリタニアの民の心の奥底に、革命精神が芽生え始めた。それは、王政などというものから脱却した真の民主国家を築こうという精神であった。

ロード・ブリティッシュは八つの徳を、人民が守るべき道として示していた。

しかし盟友ロード・ブラックソンの死を契機に徳を放棄し、自身も政治の舞台からは遠ざかり、ブリタニアの王政は事実上崩壊していた。しかしロード・ブリティッシュはこのソーサリアの法則を変える力を持っており、仮に王として表立って政に関わることはなくとも、望むならばブリタニアのみならず、ソーサリア全土を思うがままに支配することは不可能ではなかった。

人々にとって、ロード・ブリティッシュはもはや危険な存在でしかなかった。

かつてメイジ評議会の幹部だったロード・サイデルは秘密裏にミノック北部に原子炉を建設し、首都ブリティンを破壊すべく、核開発に乗り出した。

サイデルはロード・ブリティッシュの次の行動も予測していた。原子炉破壊のため、ロード・ブリティッシュはタイムロードの力を使ってアバタールを召喚すると読んだのだ。果たして事はサイデルの予測通りに運び、事前に巡らした罠によってタイムロードの力はサイデルに利用され、大量のソ連製の武器弾薬がサイデルに流れたのである。

ここへきてサイデルは少数精鋭の破壊工作・要人暗殺・ゲリラ戦を目的としたギルド、New Britannia Order、略称NBOを設置。同時にムーングロウを首都とする東ブリタニア共和国を、旧ブリタニアから独立する形で建国、宣戦布告した。

そしてムーングロウの核ミサイルはトラメルに対して使用され、ルネサンス期以来最大の繁栄を誇った一つの世界が消滅したのであった。

サイデルはマラス、徳の諸島に対する核攻撃を宣言し、それらの地の全人民をフェルツカ側へ誘い出し、

「フェルツカ再興」を唱えた後、全ての新大陸を焼き払った。

しかし突如としてフェルツカに溢れ出てきた人民が決死の抵抗を見せたため、東ブリタニアは重要拠点であるデシート島を失い、その他主要都市も被害を受けるという事態に陥った。

サイデルはNBOの旧幹部を粛清し、新たなマスターとしてロード・ファードایتという人間を遣わした。メンバーも有能な者を残して一新し、ギルド戦争全盛期に一流と評価された者だけをメンバーとした。

能力を認められなくとも志願する者はNBO下部組織に配属され、最前線で戦った。

もはや東ブリタニアに失敗は許されていない。勝利か、さもなければ東ブリタニア国民の死あるのみ。

『第2話』旧友（前書き）

ブラックソンの死から三年後。火羅はキサニクと元にはせ参じ、西側の敵を次々と葬っていた。劣勢に立たされていた共産軍も反抗に転じ始めた。

しかし彼らの前に、キサニクの旧友ソーリイマンが率いる戦争ギルドがたちだかった。

「第2話」旧友

ユーでの共産軍の屈辱的な敗北から3年後。共産軍は偉大な仲間を得ていた。火羅、禅都から現れた戦士だ。キサニクが驚いたことは、彼女の能力に限界がないことだった。火羅は剣、槍、弓、体術といった、棒術を除く全ての戦闘術に精通し、魔法、武士道、忍術も自在に操ることが出来た。通常これだけの種類の能力を身につけることは出来ない。

だがキサニクは火羅から、三年前に討たれたブラックソンの気配を微かに感じ取っていた。そしてブラックソンの加護が、彼女から限界というものを取り除いたことを理解した。

火羅は共産軍に加わるや否や、西側のコンパニオンの1人であるジャーナを殺害という手柄を立てた。九人の弓兵を率いてベスパーにおける破壊作戦を指揮していたジャーナは火羅に対して一斉攻撃を仕掛けたが、火羅は一切の回避行動をとることなく、刀一つでエナジーボルトと矢の雨を凌いだのだ。呆然と立ち尽くす十人の敵を、火羅はほんの数秒の間に葬り去った。

コンパニオンの死で、劣勢だった共産軍は奮い立った。西側の拠点となっていたコブトスを一気に制圧し、ロストランドに侵攻してパプアとデルシアを解放した。

頭痛の種はウィンドだった。居住区へ至る通路が狭く、西側に雇われた戦争ギルドの抵抗にあって前線を押し上げることが出来ずに居た。

戦争ギルドの指揮官は、ソーリイマンという男だった。ロストランドが発見された時代にデュエリストとして名を上げた彼は、今に至るまで最強の座を守り続けてきた。ルネッサンスと共に当時所属していた戦争ギルドは解散し、家売ってデュエルピットでの生活を始めた。派閥戦争は旧友の頼みもあってメイジ評議会に参戦し、その流れでデシート戦争にも復帰した。SAWが執拗な戦争妨害を

行ったため、立場上キサニクとは敵同士であったが、メイジ評議会時代に生まれた二人の信頼関係は崩れることはなかった。

しかし今回、彼はブリティッシュに雇われてここにいる。

「奴が、我々の仲間に加わってくればよいのだが」

キサニクは自らウィンド強襲作戦に加わり、ソーリイマンに接触を図ることを決意したのだった。

キサニクが選んだ精鋭は僅か十一名。ブリティンでの要人暗殺作戦や、後方攪乱作戦など、極めて危険な任務に関わってきた特殊部隊十名に、火羅を加えた人数である。戦いを焦る火羅の口から、キサニクの説明より早く質問が飛び出した。

「作戦はどのような感じで？」

「気が早いな、火羅同志。今回は火羅同志の力を存分に発揮してもらいたい。ジャーナと戦った時と同じように、連中の矢と魔法を無力化するのだ。その機に乗じ、私がソーリイマンを除く敵ギルドメンバーを狙撃する。敵がある程度倒れ、集中砲火の脅威が消えたと判断したら残る九名は前進、ソーリイマン以外を魔法攻撃で倒せ」

「了解！」

九名の精鋭は声を揃えて応えた。

「相手はあのソーリイマンが率いる戦争ギルドだ。フィールド魔法の扱いにも長けているぞ。火羅同志が攻撃を引きつけている僅かな間に事を済ませねばならん」

「ご心配なく。通常の飛び道具如き、打ち落としてご覧にいきましょう。……ただアースクエイクばかりは防ぎようがありません。もしこの魔法を詠唱する敵が見えたら優先的に倒して頂きたい」

「それなら心配無用だ。狙撃には自信がある」

キサニクは、カラシニコフを得意げにちらつかせた。

「ソーリイマンには手を出すなよ。奴がどう出るかはわからんが、どう扱うかもその時次第だ」

こうして闇夜に乗じてキサニクらはウィンドへと向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5104c/>

New Britannia Order～Ultima Online Side Story～

2010年10月9日07時48分発行